

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 17 週～2018 (平成 30) 年 第 18 週 (4 月 23 日～5 月 6 日)

今週のコメント

～A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎～うがいと手洗いが重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 とともに今後の動向に注意」

第 17 週と第 18 週をあわせて報告する。第 17 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比 9.1%増の 2,597 例であった。小児科定点疾患、眼科定点疾患の定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、流行性角結膜炎、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.2、2.6、0.7、0.5、0.4 である。

第 18 週の報告数の総計は前週比 45.4%減の 1,417 例であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.3、1.2、0.4、0.4、0.3 である。

第 18 週は大型連休のため、全体的に定点当たり報告数は減少していたが、第 17 週は、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎ともに増加しており、今後の動向が注目される。

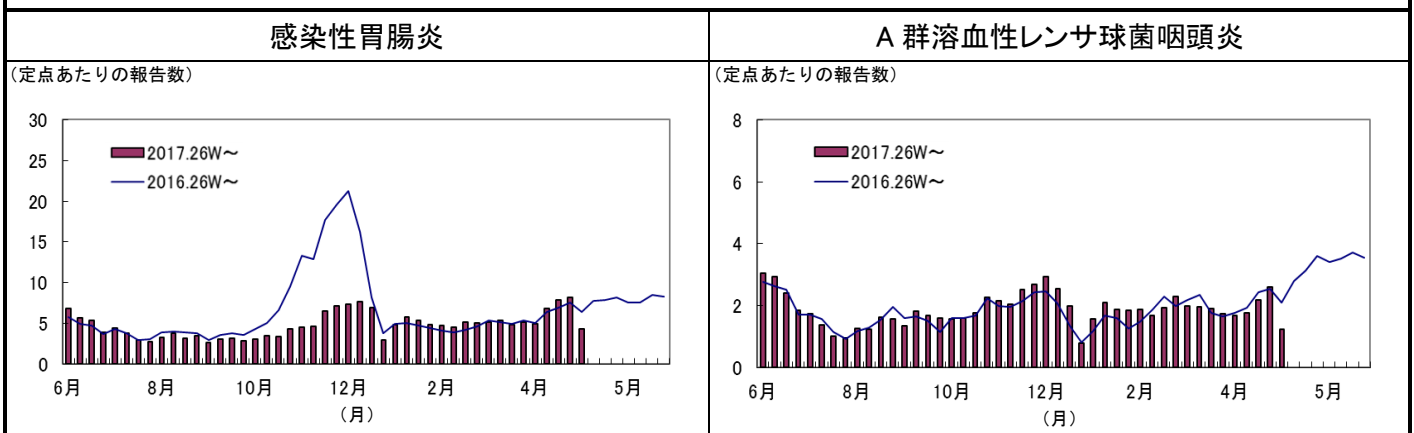


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 18 週 4 月 30 日～5 月 6 日)

第 18 週 の順位	第 17 週 の順位	感染症	2018 年 第 18 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 18 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 18 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.3	48%減	6.4	1 歳_16%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.2	53%減	2.1	4 歳_15%
3	3	突発性発しん	0.4	42%減	0.5	1 歳_58%
4	7	咽頭結膜熱	0.4	1%増	0.5	1 歳_37%
5	5	水痘	0.3	28%減	0.3	5 歳_24%

第 18 週のコメント

～アメーバ赤痢～ 発展途上国に渡航される方は、生水、氷に注意し、野菜、肉類を生で喫食しないようにしましょう

全数把握感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は、原虫である赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) を病原体とする感染症である。世界で、約 5 億人が感染し、毎年約 4-7 万人が死亡している。発展途上国への渡航者によくみられる感染症だが、国内では男性同性愛者間での感染が多い。感染経路として、汚染された飲食物による経口感染や性的接触による感染がある。大腸粘膜面に潰瘍性病変を形成し、粘血便を主体とする赤痢アメーバ性大腸炎を発症させる。大腸炎症例のうち 5% ほどが腸管外病変を形成し、大部分は肝膿瘍である。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

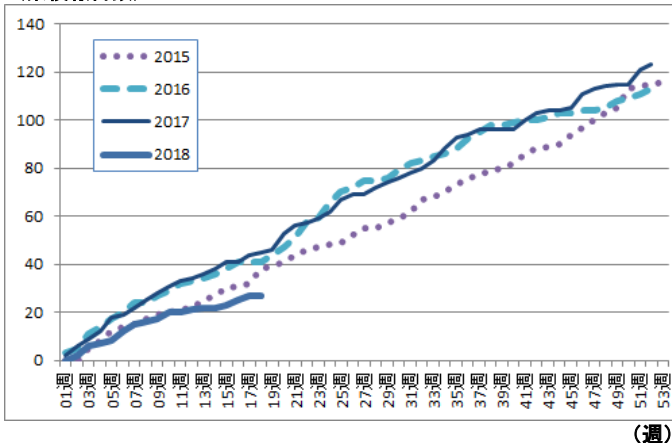


表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成 30)年 第 18 週 4 月 30 日-5 月 6 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3 類感染症	報告はありません
4 類感染症	報告はありません
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	<p>アメーバ赤痢 1 名 (泉州ブロック 1 名、府内累積報告数 28 名)</p> <p>侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 名 (中河内ブロック 1 名、府内累積報告数 24 名)</p> <p>侵襲性肺炎球菌感染症 3 名 (中河内ブロック 1 名、堺市 1 名、大阪市 1 名 府内累積報告数 114 名)</p> <p>梅毒 5 名 (北河内ブロック 1 名、大阪市 4 名、府内累積報告数 367 名)</p> <p>百日咳 2 名 (三島ブロック 1 名、中河内ブロック 1 名、府内累積報告数 90 名)</p>
結核 (2018 年 1 月分)	<p>結核 新登録患者数 : 139 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 54 名)</p> <p>(府内累積報告数 139 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 54 名)</p>
麻しん、風しん	報告はありません

(2018 年 5 月 8 日 集計分)